

劇団人間座

電話：03 - 6802 - 9392

Email: wfj39513@biglobe.ne.jp

HP : www.ningenza.jp

編集 キッチン

発行 人間座制作部



次回公演

現代制作舎・劇団人間座共同制作

信太妻異聞 恋や恋

作・演出 しみずしゅういち

2012年10月9日(火)~14日(日)

於：荻窪かいホール

出演：現代制作舎、劇団人間座 総出演

# 空飛ぶカタツムリ

## MOTTO

劇団人間座 第34回公演  
作・演出：しみずしゅういち

3月16日(金)~18日(日)

エンスト

久木 念



●あんなは凄い  
久木ちゃん、あなた、今、生きてるだけで凄い！それにオマケで芝居やるなんて、役者やるなんて、台詞覚えて舞台でしゃべるなんてギョッとするほど凄い！その理由？だって、みんな死んじゃったんだヨ、俳優座で私の親友だった佐藤慶も、みんな死んじゃって、この世から忘れられてます。岡田豊、今79歳。畜生って訳だけど、お互いもう少しガンバローね。

岡田 豊(演出家)

ウラジミ

円山 莫



●神出鬼没のマルヤマさん。「俳優」の彼を見たのは34年前の「三太郎の朝」が最後だった。「わお、再デビューね」と喜ぶ。あのいい声でどんな芝居を見せてくれるか楽しみです。跳んでください！弾けてください！！

稲葉真弓(作家)

ミナー

田代葉子



●耳の化身だ、観音様だ  
ヨーコさんは耳の化身だ。呑みながら聞いている。きつと舞台の上からも、客の胸の声を聞いてくれるだろう。つまりは観音様だ。ヨーコさんに抱かれながら、我らは楽になる。

ドリアン助川(作家、道化師)

フー

加藤雅也



●板の上が一番幸せ  
アングラからシェイクスピアまで、彼の個性は、圧倒的存在感を持って放たれる。それにしてもだ！舞台数の多さとジャンルの幅には驚かされる。加藤雅也にとって、板の上が一番幸せになれるって事なのかね？そう言えば、ある国ではマサヤという名が「幸せ」という意味になるんだよねあ！

比嘉幸二郎(映像ディレクター)

ピエロ

相馬奈穂子



●自在に時を動かす様を  
抽象絵画の会場で、即興のピアノに合わせ即興でパフォーマンスをしていただきました立つことあることすら、極上の身体表現にしてしまう奈穂子さん。タンサーという生きものが、鮮やかに空間を支配し、自在に時を動かす様を、瞬きする間も惜しんで見つめたことでした。

市野裕子(画家)

アコーディオン弾き

後藤ミホコ



●狂熱のアコーディオニスト  
気さくで飾らないオフステージの後藤さんですが、アコーディオンを弾いた瞬間、情熱に溢れたジブシアアコーディオニストに変身する。「もつともつと」「まだまだ」、ありったけのエネルギーを一心不乱にじゃばらに吹き込むその姿は、観衆を熱くさせる。体中の細胞ひとつひとつが目覚めます瞬間だ。

赤坂守(CDプロデューサー)

●チケット問い合わせ

劇団人間座

電話：TEL：03 - 6802 - 9392

チケットぴあ Pコード 418-104 (TEL0570-02-9999)

Email: wfj39513@biglobe.ne.jp

入場料 3,500円(当日、前売りとも)

※日時指定、全自由席

銀座みゆき館劇場 東京都中央区銀座6-5-17

TEL03-3574-0694

| 3月16日 | 3月17日 | 3月18日 |
|-------|-------|-------|
| 14:00 | 14:00 | 15:00 |
| 19:00 | 19:00 |       |



■スタッフ

作・演出  
美術  
装置・小道具  
照明  
音響  
作曲  
ドラム指導  
メイク・衣裳  
振付  
舞台監督  
舞監助手  
新聞編集  
制作協力

しみずしゅういち  
池田龍雄  
(株)アイ・アール  
吉本 昇  
小原木克郎  
後藤ミホコ  
斉藤 良  
益 実  
原田拓己  
土倉タイスケ  
羽根田光弘  
(株)キッチン  
現代制作舎  
川並和歌

演出ノート  
不器用な自由

学生だった60年代の時代の空気感みたいなものをいつか寓話劇として表現しようと考えていました。そしてまず最初に60年代のキーワードはなんだろうと考えました。戦後民主教育の申し子として生まれた私たちにとって60年代までに様々な権利が解放され、自由の洪水の中で、サルトルの言う「自由という存在の不安」に初めて気付かされた、つまり「不器用な自由」の時代だったのではないかと考えたのです。概念としても、心情としても輪郭の不明確な得体の知れない自由の前で、たじろいで定義に失敗した時代だったといえるかもしれないと。あけからこち、今も「人は自由という刑に処せられていて」自由はますます混沌し死体のように横たわっているようです。民主主義は色褪せて光を失い人々を幸福にはしていません。資本主義はゆがめられてマネーゲーム化し、科学や技術といった文明すら原発事故や地球温暖化のように人々を攻撃しているかのようです。格差社会の中で貧困化する若者が増えています、世論調査では20代の70%が今の生活に満足しているものの、悩みや不安がある人は63%だそうです。幸福度は世界ランキングで90番目(178国中)です。大きな市民社会の曖昧な自由の中で、特にこの時代の若者は一人一人孤立し今もお孤独です。そして震災以降標語となった「絆」という言葉がどこか虚ろです。従順な若者の眼の中に、理不尽に壊れてゆく市民社会が亡霊のように揺れているかのようです。あらかじめ敗れた敗者の頑張り、この時代を意欲するのは大変ですが、それでもなお、必ずしも哲学的意味ではないかもしれない「時代の自由の出口」光明は必要です。どんなに未来に希望ある社会が期待できないとしても不器用な自由だとしてもこの鬱屈した社会から解放する自由の出口を模索する意思が、今必要なのではないのかと考えているのです。

●本作品に出演を予定し、執筆中に急逝した盟友脇山誓史に捧ぐ。  
しみずしゅういち